

平成 27 年度第 2 回静岡県国土利用計画審議会での質問について

1 県の太陽光発電の動向等について

委員の質問	回答	備考
林地開発を行った太陽光発電事業が中止となった場合の復元について、担保できる仕組みづくりが必要ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> 国は、固定価格買取制度（FIT）を見直し、太陽光発電事業開始前の審査に加え、事業実施中の点検・保守や、事業終了後の設備撤去等の遵守を求め、違反時の改善命令・認定取消を可能とする新しい仕組みを導入。 ※「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法等の一部を改正する法律」（平成 28 年 5 月 25 日成立・6 月 3 日公布・平成 29 年 4 月 1 日施行） 	
本県の太陽光発電の導入状況や林地開発の状況、メガソーラーの設置面積について把握しているか。	<ul style="list-style-type: none"> FIT による太陽光発電の導入量は、平成 27 年度末現在、計 1,013,707kW で、うち 10kW 未満（住宅）が 184,943kW（18.2%）、10kW 以上（非住宅）が 828,764kW（81.8%）、そのうち、メガソーラーが 245,282kW（24.2%）である。 太陽光発電施設の林地開発許可された面積は、平成 24 年度から平成 27 年度までの累計で 91.5ha となっている。 平成 27 年度末現在、稼働している県内の主なメガソーラーの面積は 447.6ha となっている。 	別紙① 別紙② 別紙③

2 中央新幹線の残土処理について

委員の質問	回答	備考
中央新幹線の残土処理の動向を把握しているか。	<ul style="list-style-type: none"> JR 東海から環境影響評価書で発生土量約 360 万 m³ が示されている。 現在、JR 東海は発生土置き場の詳細な計画について検討を進めており、現時点では、具体的な場所等については決定していない。 	